

## 藤田保健衛生大学総合医科学研究所システム医科学

### Raw data の取扱いについて ver.5

ウエスタンブロット、PCR、組織染色などコンピューターで取込んだ画像、および ELISA や Real-time PCR data などは、以下の要領に従って、作成、保存、管理を行ってください。

#### 【画像データの保存法】

1. 取込んだ画像は、ラボ内で統一した名前で保存する。

**[作成者のイニシャル]\_[実験名]\_[系統名]\_[組織]\_[番号]**

実験名は下記のように記載する。

組織染色の場合 HL; ウェスタンの場合 WB; PCR の場合 PCR; ELISA の場合 EL; Real-time PCR の場合 RT

ウェスタンや PCR の場合、複数のマウスサンプルを一緒に電気泳動したりするので、マウスの ID で書けない。使用したマウスの ID は、後述の Excel ファイルの備考欄などに記入する。マウス ID は、マウス管理のファイルにあるものと一致させる。

例) HH\_HL\_shn2-DG-1 や HK\_WB\_camk2-PFC-4 のように記入

2. ウェスタンブロットや PCR 画像について、raw data (できるだけ全てのレーン、ウェルからゲルトップまで含んだもの) を保存する。
3. 顕微鏡などで取込んだ組織染色画像について、raw data (5F 共焦点の場合は、Lsm ファイル形式; ファイルを変更しないこと) を保存する。

#### 【ELISA や Real-time PCR データ】

1. 研究補助員の方などにデータ取得後解析してもらうことを考慮し、ブラインド解析用のファイルを作成し、画像データ作成時と同様に、ファイルに名前をつけて保存する。

#### 【データの保存と管理】

1. 同じ日に取込んだデータについては、Excel で一覧リストを作成する。ウェスタンと組織画像の取り込みなどを同日に行った場合、シートで分けて作成し、1つのファイルにまとめる。リストには、各ファイル名と備考欄として、以下のようなメモ書きを記入する(第三者が見てわかるような書き方にする。また、使用したマウス ID を記入する)。簡単な実験条件などについても、備考欄に記入しておく。

・ウエスタンブロットや PCR の場合、各レーンの説明、バンドが何を示すのか等記入する。

例) ウェスタンの場合

レーン 1: サイズマーカー, レーン 2: Wild PFC 20 ug, レーン 3: Shn2 KO PFC 20 ug; anti-PV (1/1000)で検出

・顕微鏡写真の場合、何を染色したものなのか(多重染色の場合、各色に対応するものを明記)、用いた抗体やプローブ等を記入する。

例) 緑: anti-Calbindin (1/10000), 赤: Hoechst (核染色); 8 week-old Shn2 DG

作成した Excel リストファイルは、画像フォルダとは別のフォルダである『excel\_info』に入れる。また『excel\_info』フォルダについては、アクセス権を制限する(ログが残るように設定)。

2. 作成した各画像ファイル、ELISA や Real-time PCR などのデータファイルは、

[西暦の作成日:2014 年 3 月 20 日であれば > 032014]\_[作成者のイニシャル]

と名前を付けた一つのフォルダに入れて、保存用ファイルサーバー『data』 > 『Raw data』フォルダにアップする。

例) 032414\_HH

3. マウス genotyping の Excel file について、『Mouse genotypes』フォルダに入れておく(補助員の方がおもに入れる)。定量解析を担当する補助員の方は、マウス ID がわかる『excel\_info』の Excel ファイルにはアクセスできないので、解析時にはブラインドが保たれている。

4. その週のラボミーティングなどで発表した解析データには、サーバー内のどの raw data が元になっているのか、そのフォルダやファイル名をラボミーティングファイルに記入して、各データが参照できるようにする。

5. 解析した後の統計ファイル(Excel ファイルなど)は、独創一理 SNS のラボ内の各論文スレッド(論文テキスト原稿、図表等をアップしているスレッド)に、解析後速やかにアップする。